

巻頭言



千葉市長 熊谷 俊人

グローバル化への挑戦

リオデジャネイロオリンピック・パラリンピックが閉幕し、2020年の東京オリンピック・パラリンピックへの気運が日ごとに高まっています。来る東京大会では、千葉市内でもオリンピック3競技・パラリンピック4競技が開催予定のため、競技会場都市としてふさわしい都市となるべく、環境の整備を進めています。また、千葉市は2つの国際空港、成田空港と羽田空港との中間に位置し、高速道路や鉄道などにより周辺都市へのアクセスも容易です。そのような地理的特性を生かして、都市の国際性の向上を図るための取り組みを行っています。

千葉市における外国人宿泊客数は、平成22年から平成27年にかけて3倍以上に増加しています。本市では、訪日外国人客集客のため、多様な国籍や習慣をもつ方がくつろいで滞在できるよう「おもてなしダイバーシティ」戦略と名付けた滞在環境の整備に取り組んでいます。外国の多様な文化や風習、宗教上の戒律から生じる滞在中の不自由さを解消するために、外国人観光客が安心して快適に、市内に滞在できるおもてなし体制を官民連携して整え、集客機会および消費機会の拡大を図るための魅力発掘および情報発信を行います。また、千葉市は平成27年6月に観光庁から「グローバルMICE強化都市」に選定されました。幕張新都心は幕張メッセを中心に整備された国際コンベンション都市であり、複数の商業施設、レッドブルエアレースの会場にもなった日本最長の人工海浜、千葉ロッテマリーンズのホームグラウンドであるQVCマリンフィールドなどの観光資源が豊富です。国の戦略的支援を受け、千葉県とも連携しながらさらなるMICE誘致に取り組んでいきます。

さらに、千葉市は平成28年1月、産業の国際競争力の強化や国際的な経済産業拠点の形成を図るための「国家戦略特別区域」に追加指定されました。ドローンによる宅配サービスやロボットタクシーの無人運行など、幕張新都心の立地特性を踏まえた取り組みを積極的に進めています。幕張新都心が千葉市のみならず日本の成長を牽引する「近未来都市」として世界にアピールできるように、その実現に向け挑戦していきます。

これからも、本市のさらなる活性化のため、都市の国際性の向上をはかり、国内のみならず海外からもビジネスや生活の場として選ばれる都市を目指していきます。